



ケーブル交換で愛機の音が変わる

イヤフォン、ヘッドフォンの リケーブルを究める

取材・文：山本 敦 Atsushi Yamamoto

最大の楽しみはケーブル交換による音質の変化

ケーブルの着脱に対応するイヤフォン、ヘッドフォンは、元々はミュージシャンやDJのプレイバック・モニター用途を中心としたプロフェッショナル製品に多く採り入れられていた仕様だった。ステージ上での予期せぬ故障やトラブルに、素速く柔軟に対応することを目的に開発された機能であり、ケーブルを入れ替える、新しくするといった意味合いから、「Recable(リケーブル)」と呼ばれることも多い。

最近ではコンシューマー向けの上級機種、またはカスタマイザーモニターと呼ばれるプロ志向の製品の中にリケーブル対応の製品が増えつつあり、ケーブル交換によって音の変化が楽しめることから人気も高い。ケーブルに使われている線材や構造、外皮素材や編み方などでも

音が変わるため、イヤフォン本体との組み合わせを試しながら自分好みの音に追い込んでいける奥深さがある。

ケーブル本体の断線やコネクタ部分の接触不良などが発生した場合にも、ケーブルを交換すれば高価なイヤフォン、ヘッドフォンを長く愛用できるメリットもある。また柔軟性や取り回しの良さで選んだり、色やデザインなどファッション感覚でリケーブルを楽しむという使いこなし方もアリだ。

元々はプロ用のカスタムイヤモニターや、アルティメットイヤーズ、シュアに代表される海外ブランドを中心にリケーブル対応モデルが人気を博してきたが、国内のブランドからも対応機種が続々と出てきた今、リケーブルに熱い視線が注がれている。

ADL iHP-35M

¥9,500/1.3m

αプロセス処理のメイン導体 フルテック・ADLのリケーブル

- メイン導体：0.05mm×10本 α-OCC
- 中心導体：特殊構造0.1mm径 綿/銅箔撚り線
- 絶縁体：スペシャルグレードテフロン
- シールド：0.1mm×28本 銀メッキα-OFC
- シース：柔軟性PVC ●長さ：1.3m/3m

フルテックのADLブランドにラインナップするMMCXコネクタ採用のリケーブル。メイン導体にはフルテック独自の、-196℃で超低温処理と特殊電磁界処理を行なう「αプロセス処理」による銀メッキOCC素材を採用。中心導体には特殊構造の0.1mm口径、綿/銅箔撚り線を用いている。MMCXコネクタは非磁性24K金メッキ処理の特殊銅合金、ハウジングは高制振性の特殊精密セラミックを使っている。



ヘッドフォン



ADL iHP-35X

¥10,320/3m

AKG Studioシリーズなどに 対応するミニXLR端子を採用

- メイン導体：0.05mm×65本 α-OCC
- 中心導体：特殊構造0.15mm径 綿/銅箔撚り線
- 絶縁体：PVC
- シース：柔軟性PVC ●長さ：1.3m/3.0m

AKGのStudioシリーズ、Studio MK IIシリーズ、およびパイオニアのHDJ-2000などに対応するミニXLR-F型のヘッドホン端子を採用したリケーブル。メイン導体にはフルテック独自の「αプロセス処理」を施した銀メッキOCC線を使用。コネクタやプラグ、ハウジングにも非磁性のパーツを使い、細かな部分まで高音質化に気を配っている。ケーブルの長さは2種類が揃う。